職掌をも併記し又拂米に關聯せる藏中使制度に就ても論述し、特に其制度の骨子たる指米給米の事に最も力を注がれてあつて、研究の範圍は廣くないが、本制度に關する從來の通說の缺陷を補ひ學界に裨益するものは多い。猶ほ本書は末尾に佐賀藩藏屋敷舊記文書解說を附し其中の元文二年記錄を鮮明なる四十九葉の玻璃版に附して示してある。（四六倍版、本文四六頁圖版四九、大阪史學會發行、非賣品）

●南宗寺史　　曾根　研三編

堺の南宗寺は三好長慶が大林和尙を開山として建立し後に澤庵和尙が之を中興した名刹で茶人紹鷗が大林に歸依することが深かつた爲め其の門下の茶人で此寺に交涉を持つた人も多く、此寺と茶道とは離るべからざる關係が結ばれて居つた。且つ又當寺は所謂南宗論語に依つても有名で我が文化に少からざる關係を有する寺である。然るに從來未だ詳密なる調査に成つた寺史が無かつたのを遺憾とし先々住及び先住の七周忌に當るにより現住龍山道嚴氏は其の記念として寺史の編纂を企て堺市史編纂員たる曾根氏に囑して編纂出版されたものである。猶本書の一半を資料に割き主として當寺所藏の古文書記錄金石文を年代順に揭げ、附錄には住職歷代略譜、主要什物目錄、當寺年表を載せてある。創建以來文化方面に關係が深かつたゞけに寺史として興趣が多く、一般文化特に茶道を論ぜんとする士の一讀に値ひする（和裝一八九頁、堺市南宗寺發行、非賣品）〔以上松野〕

●耶蘇會士日本通信　上卷　　村上直次郎譯　渡邊世祐註

異國叢書の企ては世界に於ける日本を見んとする人々にとつての大きな悅びである。今度その第一回配本として上記の一册が我々の机上に送られた。本文四六一頁に收むる所は一五五九年より一五六九年に亘つて耶蘇會士ガスパル、ビレラ。コスモ、デ、トルレス。ルイス、ダルメイダ、ルイス、フロイス等が印度その他に送つた書翰卅一通でありその內容は京畿を中心とせる彼等の活動並に見聞の報告である。勿論そこには彼等の偏見と誤解と

誇張こが含まれても居やう然し全體こしては尚ほ當時の日本が示したであらう世態こ人情この巧まざる觀察を提供して居る。殊にその叙述が概して具體的であり物そのものを見る感じの深い點は感謝せねばならぬ。例へば一五六九、六、一附ルイス、フロイスの書翰に描かれた織田信長の如きいかにもその人を想察せしむるものがある。かゝる本文の外に序說こ索引が附せられ前者に於ては此等書翰の背景こなるべき耶蘇會運動が概說されて居る。同じ譯者に依て譯せられ耶蘇會年報こ題して長崎叢書に收められたものはこの書翰集の長崎附近に關係あるものを拔萃したものであり彼此對照して讀む必要があるけれども若しそれらが統一的に全譯さるゝ日があつたならばいかに便利であらうかこ思ふ。なは渡邊博士の註も讀者の理解を助ける事が少くないであらう。（菊版五二七頁、東京聚芳閣發行、非賣品）

封建社會崩壞過程の研究　土屋　喬雄著

「自然においても亦歷史においてもしばしば飛躍もしくは變革が行はれる。かゝる飛躍もしくは變革は、いふまでもなく、天上より降り來るものゝ如く、突如こして起るものではなく必ずやこれに先行する推移變遷の過程―社會についていへばその內的矛盾擴大の過程―によつて準備されるのである」こいふ序文の一節は最もよく著者が此問題を取扱つた態度を示すものである。要するに近代資本主義社會を生み出した明治維新の準備を江戶時代そのものが示した封建社會崩壞の過程に於て見んこするのが著者の覘ひ所である。この目的の爲に取扱はれたのは加賀薩摩仙臺の三大藩であり時にその財政史が視野の中心を占めて居る。その研究が極めて詳密である事は充分の尊敬に値しこの點に於ては著者の言葉通りに「未だ世に知られざる事實」が新に紹介されたものが多い。この著に限らず近世史研究の範圍が次第に日本の隅々に迄及ばうこする近來の傾向は日本近世史そのものゝ完成にこつて最嘉すべきであり著者が本書に依つてこの方面になしたる貢獻は頗る大きいこいはねばならぬ。只本書に於て我々が見る處は武士社會特に大藩に於ける財政窮迫の事實に限られて居りそのかくの如きに至らざるを得な

かつた理由については殆ど聞く處がないのである。今や渡歐の途にある著者が聽て歸來せん時この研究が更に深刻味を加へ全體として封建社會崩壞過程に說明が與へられる事を期待するものである。（菊版七二九頁、京都弘文堂發行、價四、五〇圓）〔以上肥後〕

◉景印入唐求法巡禮行記

本書は東洋文庫論叢第七（未刊）の附篇として京都東寺の觀智院本を景印し三百部を限りて刊行學界に提供したるものなり。本書の來歷に就きては今更事新しく縷述するまでもなく、今を距る一千九十二年の昔、仁明天皇時代に我が遣唐大使藤原常嗣に從ひて遙々入唐せし慈覺大師の筆に出で、大師が五臺山に登り、長安の高禖を叩き凡そ拾年間に今の江蘇山東直隷山西河南陝西安徽の各省地方を巡歷したる紀行なり。その記する所風俗儀式官制政治外交佛敎道敎摩尼敎の諸方面に亙り、海陸通路の地名と情景とは直にとりて以て當時の交通地理の參證となすに足る。然れば本書が根本史料としての價値の豐富なるは喋々を要せざるのみならず、一千年前に於ける此の種の紀行としては和漢洋を通じても比類稀なる世界的史料と謂ふも決して溢美にはあらじ。大師眞蹟の原本は早く亡逸せしが、その寫本は夙に宋朝祕閣の藏本にも入り、我が國に在りては東寺觀智院と池田長田家に各々一本あり、觀智院本は伏見天皇の正應四年（元の世祖の至元二十八年）に兼胤法印の鈔寫せしものに係り今國寶に指定せらる。嘗て續々群書類從、及び四明餘霞の附錄として活字にて印行せられたることあるも珂羅版を以て觀智院本の原型そのまゝに、刊行せらるゝは今回を以て權輿とす。本書の內容が學術的に利用せらるゝは從來あまり普ねからずその日本唐新羅に關する豐富なる記載にして史の闕を補ひ傳の訛謬を正すに足るべきもの實に枚擧に遑あらざるは將來永く本書が史料として學界に珍重せらるゝ所以ならむ。國史研究者は勿論、東洋史朝鮮史研究者にとり至重至貴のものとす、今回刊行のものは全部珂羅版の景印にして四大冊となし、別に文學博士岡田正之氏の解說一冊を附す。解說中には史實補正の二三例として唐の武宗の宦官抑壓の經緯、武宗の廢佛毀寺の事情、新羅